



仕事に慣れ始めてきた3、4年目のある日、曾我は大きなミスをしてしまう。1日で2000メートルの不良を出してしまったのだ。チューブは柔らかい発泡体で作るため、加工する際には見えないわずかな誤差が生まれる。100%完璧ということはなく、大きな誤差になる前に微調整を行わなければ不良品ができてしまう。

現在はこうしたミスをなくすために、AIやセンサーで微調整できないかと考えている。これはまもなくやってくる労働人口の減少に立ち向かうためにも必要で、現在もすでに

は変わる。曾我の当たり前を変える言動は、入社当時からその片鱗を見せていたのである。

失敗も生産性向上のきっかけに



お気に入りの「おにぎりポーズ」

曾我 達也

配管材事業部 製造2課 チュービング班 班長

配 管材事業部製造2課 チュービング班の班長である曾我達也は、生産の指示や機械の修理、不良や生産性の改善を積極的に行っている。そんなボジティブ思考な彼に、仕事での取り組みや今後の目標を聞いた。

常識を変える行動力

入社してすぐ、仕事を続けていくのが大変なほどの悩みを持った。その原因は静電気。子どもの頃から特に静電気が苦手だった曾我は、金属部分に触れる機会が増えたことで、静電気による痛みが日々増えられていた。誰もが経験する些細なことではあるが、それでも痛む回数多さは我慢しきれないものではない。

そこで当時の上長に相談したところ、すぐに静電気を抑制する安全靴を支給してもらい、悩みは解消された。すると、これまで静電気による痛みを口でできなかった周囲の仲間も次々とその安全靴を履くようになり、その輪はチュービング班にとどまらず他部署にも広がっていったのだ。

誰もが「しょうがない」とあきらめていた悩みを口に出すことで常識

いくつかのセンサーを取り入れていくが、まだまだ足りていない。メーカーと相談して、必要な機材の商品化へ本格的に取り組み予定だ。

長期間の取り組みが特別表彰に

曾我は班長になってから数年後、自ら主体となって一部ラインの生産性向上活動を進めてきた。活動はまもなく完了予定だが、その効果の見込みと班全体の仕事に対する積極性が評価され、昨年の創立65周年記念式典でチュービング班が特別表彰された。

もともとA、B、Cの各ラインで生産できるチューブはそれぞれ種類が違う。以前から、3つのラインを通して仕上げるという工程には改善の余地があると考えていた曾我は、すべてをCラインだけで作るという、これまでの常識にはない発想を提案。1年以上かけて治具製作・試作を進めてきた活動もようやくゴールが見えるところまでできたのだ。

A、Bの2ラインで行ってきた工程と人件費をなくすことで、年間約400万円の経費削減が見込まれている。当たり前にあるものを当たり前

前と思わない発想力が生産性の向上につながり、ともに頑張ってきたチュービング班全員で高評価を得ることができたのである。

休日のリフレッシュが活力になる

曾我は、日々の業務に積極的に取り組みするために必要なのは休日の使い方だと考えている。平日の疲れから、休みはだらだらとスマートフォンやテレビを見て終える人も少なくない。しかし、それでは余計なことを考えてしまい、頭がリセットできない。

そこで曾我は、休日は非日常を体験しに登山やキャンプに行く。登山の最中は仕事のことなど考える余裕はないし、山頂の景色を見るときは頭を空にして自然に心身を開放できる。キャンプで定番の焚火には『1/fゆらぎ』と呼ばれるヒーリング効果があることも実証されている。

「登山とまではいかずとも、読書や映画鑑賞でも非日常を感じられませう。月曜からまた頑張るために、しっかりと頭をリフレッシュする休日の過ごし方をお勧めしたいです」。そんな曾我の目標は、チュービン



グ班が2年連続で特別表彰されることだ。そのためにも、班員とのコミュニケーションをしっかりと取って、日々の作業に尽力していきたい。現状に甘んじず、常に改善と生産性の向上を大切にする曾我は、今後も着実にミッションを果たしていくことだろう。

企業情報

◆設立年：1954年6月
◆年商：225億円



配管材事業部 製造2課 課長
兼 生産管理課 課長
はやしけんじろう
林 健太郎さん

■第一印象

第一印象は「真面目で確実に仕事をこなしていく人」でした。その印象は今も変わりませんが、現在はチューピング班の班長としての能力が昔よりも高まっていると思います。

■忘れられない思い出

チューピング班で彼がライン担当者になった際、一日の生産数量を大幅に上げたことが忘れられません。

■曾我さんはどんな存在？

一緒に十数年働いてきましたが、こちらに対してしっかり前向きに伝えてくれるので絶大な信頼を置いています。

■尊敬しているところ

「現場を改善していく力」「推し進める力」を持っていることですね。

■曾我さんへのメッセージ

仕事が忙しく、曾我くんフォローされることが多くて、とても助けられています！ありがとうございます。

曾我達也さんへのメッセージ

巻頭インタビューで紹介された曾我さんについて、林さん、岡田さんのお二人からお話を伺いました！

■第一印象

明るく活発で体格の良い、野球部に所属しているような方という印象でした。現在も印象は変わらず、みんなを率いるまとめ役として活躍されています。

■曾我さんはどんな存在？

長年の研鑽によってたくましく成長し、また学ぶべきことをきちんと学んでおり、尊敬する存在です。

■尊敬しているところ

製造業なので、いくら管理していてもミスは出てしまいます。しかし、その後の切り替えの速さ、立て直しを図る地道な努力、根性の強さ。私も見習いたいと憧れています。

■曾我さんへのメッセージ

長年班長を続けて、自信がついてきたと思います。さらに次のステップに挑んで、今までの努力が報われるような高みを目指してください！



配管材事業部 製造2課
チューピング班
おかだまさたか
岡田 正隆さん

活躍するママ社員

ママ社員として働く安齋さんと杉山さんに、育児と仕事の両立についてお話を伺いました！

あんざい みさ 安齋 美紗さん

化成品事業部 製造課 加工第2班

業務内容

製品の梱包(ほとんど手作業で行う)

勤務形態

8時10分～17時10分のフルタイム

ママ社員として働く上での苦労

仕事中に子どもが体調を崩して保育園から電話が掛かってくると、仕事を一度止めなければなりません。そういうときに周りの方にご迷惑をお掛けしてしまいますが、皆さんフォローしてください。

業務の中で嬉しかったエピソード

先輩のママ社員が相談に乗ってくださるとき、嬉しく感じます。特に「子どものことを怒り過ぎてしまった」など子育てに関する悩みについては、役に立つアドバイスをいただいています。

失敗談と、そこから学んだこと

梱包をする際、数ミリの誤差で製品をだめにしてしまったことがあります。ミスしてしまったときは、先輩社員のアドバイスから改善策などを学んでいます。

将来展望

これから産休に入る方々の仕事をフォローし、自ら声掛けなどをすることで、よりママ社員が働きやすい環境づくりに努めていこうと考えています。

他のママ社員や、これからママ社員となる女性社員へのメッセージ

子どもを預けて働くのは大変ですし、1人で悩んでしまうこともあると思いますが、周りにはママさん社員も多いので、気軽に相談してください！



すぎやま さやか 杉山 紗弥香さん

化成品事業部 製造課 加工第1班

業務内容

出荷するものに合わせて型を出すなど、その日の段取りがメイン

勤務形態

8時10分～17時10分のフルタイム

ママ社員として働く上での苦労

小学3年生と1年生の2人の息子を育てています。保育園の時代はお弁当の準備をしていましたが、小学校では給食が出るので助かっています。朝はあまり時間ありませんが、主人に協力してもらいながら準備しています。

業務の中で嬉しかったエピソード

育休明けは1か月ほど慣らし保育があったのですが、上司の調整により保育園に合わせた退社時間にしてもらえました。やはり最初からフルタイムで働くのはきつかったと思うので、配慮に感謝しています。

失敗談と、そこから学んだこと

以前はプレス作業を行っていたのですが、圧力を間違えて型を壊したこともありました。しかし、私は負けず嫌いなので、上司にきついことを言われても「見返してやる」という気持ちでいつも乗り越えています。また、仕事が上手くいかないときは、仲間と話すことでストレスを発散させています。

将来展望

欠働をゼロにすること、この会社に必要とされる人材であることが目標です。

他のママ社員や、これからママ社員となる女性社員へのメッセージ

仕事で困っているときは、誰かにSOSを出して頼ってください。そうしたら、みんな快く助けてくれると思います。